

2005年が始まり、すでに1ヶ月が経過してしまいました。3週間近くあった冬休みもあっという間に終了し、人がいなかったこの町にも学生が帰ってきて、元の賑やかさに戻りました。1月19日より春学期が開始しました。先学期の講義は単位を落とすことなくすべて pass 出来たので、今学期もすべて pass できるように頑張っていこうと思います。

今回の報告書では自分が履修した講義と講義内容についての説明を報告したいと思います。今学期に履修した講義は以下の通りです。

《 春学期の履修科目について 》

今学期 Spring-semester に履修した科目について報告します。

- ESL 114 (English structure and paragraph development for undergraduate student)
- ESL 500 (English Oral Communication and)
- KOL 202 (Korean Language class)
- ECE 491 (Introduction to Numerical Analysis)
- ECE 313 (Engineering Ethics)
- AE 410 (Computational Aerodynamics)

以下にそれぞれの講義の内容について説明します。

ESL114 (English structure and paragraph development for undergraduate student)

この講義は英語を母国語としない留学生が履修する講義であり、UIUC 側から『必須』として履修するように要求された科目です。単位数は 3 hours credits。先学期に履修した ESL113 の続きのような感じで、主に文章の書き方を学んでいます。このクラスはしっかりとした授業形式で、担当教員も積極的に発言を求めてきたりするなど、前回の ESL113 とは大違いだと思いました。

授業の予定表では前半は個人的な作業(エッセイやレポート等)、後半にグループでの作業があり、また授業の終わりに 1人5分間ほどのスピーチを行うなど、中々変化に富んだ授業形式となっています。

ESL500 (English Oral Communication and)

この講義も英語を母国語としない留学生が履修する講義であり、本来は修士課程および博士課程の学生向けの授業です。UIUC での我々のステータスは Undergraduate であるため本来は履修できませんが、担当教授にお願いし、この授業を履修させてもらうことが出来ました。単位数は 0~4 hours credits で、自分は 3 hours として履修させてもらいました。

授業内容は学術文章の書き方、効果的なプレゼンテーションの仕方、レクチャー形式とディスカッション形式ですが、主にディスカッションでの議論がメインとなっています。従って、クラス内では常に発言を求められます。また、このクラスの受講している人は私を除きすべてが博士課程の人たちであり、発言内容もより専門的で質の高い授業が行われている気がします。しかし、全員がインターナショナルであるため多少の英語の間違いは気にする事無く発言できます。クラス内の雰囲気はいたって穏やかな感じであり、また皆さんが気を遣ってくれ(ちなみにクラス内では私が一番最年少のようです)、日本人も私一人であるため、私としては非常に良い今のところ選択して正解であったと感じられる講義です。

KOL202 (Korean Language class)

この講義は前回の KOL201 の続きの講義で、韓国語を学ぶ講義です。KOL201 で一緒であった友達たちと話し合い、続きであるこの講義を履修することにしました。今学期のクラスも 10 人程度と、少人数クラスなので新メンバー達ともすぐに打ち解けることができました。今現在は、英語でいう関係代名詞などを学んでいます。今現時点での問題は、ハングル語を読んだり、話したり（少しですけど）は出来るのですが、ハングル語を書くことに対して非常に困っています。似たような発音が多いのと、日本人に馴染みの無い文字の形をしているため、非常に難しく感じられます。

ECE491 (Introduction to Numerical Analysis)

この講義は、電気系の講義となっていますが、実際には数学・コンピュータ工学などのクラスが統合されている講義です。単位数は 3 hours credits です。クラスタイトルの通り、数値解析の基礎から学んでいくという授業です。内容としてはレクチャー形式のみで授業が進められますが、宿題としてプログラムを作って提出というような場合もあります。授業の雰囲気ですが 100 人ぐらいが一度に受講というような形であるので、ある人は真剣に聞いており、ある人はいつも寝ているなど日本の授業雰囲気と代わり映えはしないなと思いました。おそらく前者の人たちは主に大学院生であり、後者は学部生であると思われます。

400 番目の授業は大学院生と学部生の両方が受けることが出来る講義であり、本学校でもこのような制度があれば有意義ではないかと思われます。

ECE313 (Engineering Ethics)

この講義は、クラスタイトルに書いてあるように技術倫理を学ぶ講義です。単位時間数は 3 hours credits。授業形式はレクチャーではなくディスカッション形式のみです。従って授業内での発言がそのまま成績になるということです。この授業はアメリカ人ではない私にとって（クラス内でアメリカ人でないのは自分のみ）難しい内容である上、発言しようにも瞬時に英語で発言が出来ないため、発言の機会を失ってばかりです。教授に相談したところ、発言が重要であるため、このままでは単位を与えることは難しいだろうと言われたので、おそらく授業の成績が付く前に、この授業を drop しようと思います。ただ、内容としては興味がある分野であったので（日本的倫理観とアメリカ人的倫理観の違いを知りたかった）drop するかどうかは決めかねています。

この授業を通して、自分の英語力はまだまだだと痛感させられました。

AE410 (Computational Aerodynamics)

この講義はコンピュータ流体解析(CFD)をトピックとした講義です。単位数は 3 hours credits ですが、今回履修したトータルの credit 数が 18 hours を超えてしまったため、この授業を聴講生として履修することにしました。この授業は、ECE491 と内容が少し重なっており、内容を理解していく上では都合が良いと思ったため。また、自分の専門分野として工大および金沢大学で勉強しているため、再度復習もかねることが出来ると思ったため履修しました。

しかし、この講義の教授は中国人であり、英語の発音および文字がアメリカ人と比較すると、相当汚いため（失礼!!）理解するのがちょっと大変です。

今月を振り返ってみて

新しいクラスが始まり、気分一新と行きたいところでしたが、休みボケが続き気合の入らない日が続いてしまったような気がします。今回の履修についてですが、先学期は英語能力の改善のみに努めてきたのですが、今学期からは自分の専門分野および、ディスカッションでの発言力を高めたいと思いこのような授業の選択をしました。

今学期の目標としては上記の能力を高めること、および先学期同様すべての講義において単位を落とすことなく頑張っていこうと思います。

先日、昨年の夏に金沢工業大学へのサマープログラムで訪れた学生や、今年の夏に訪れることが決まっている学生達と会うことが出来ました。色々話を聞いていると昨年訪れた学生は非常に楽しく有意義な時間を過ごさせてもらったと言っており、これから訪れる学生たちは、『KIT ってどんな感じの所?』など色々期待を膨らませて質問してきます。このような話ができるのも交換留学生ならではの会話だなと感じることができました。

残り4ヶ月ほどとなりましたが、精一杯頑張っていこうと思います。